

# 雛祭りの起源



## 1 雛祭りの起源

### (1) 禊ぎ祓い

「三月上巳の日（陰暦三月初めの巳の日）」

または「上巳の祓（じょうしのはらえ）」

三月の初めの巳の日に水辺に出て、穢れを祓い清める儀式で中国から伝承した。日本では顕宗天皇元年（485年）三月上巳を文献上の初見とする。この日、贖物（あがもの）天児（あまがつ）と呼ばれる人形（ひとがた）に自分の息を吹きかけ、体にこすりつけて穢れを移し、水に流して災禍を払った。源氏物語でも、須磨に隠棲した光源氏が三月上巳の日に身の潔白を訴えるために人形を海に流している。この禊ぎ祓いの風習が後の「曲水の宴」になった。

### (2) 曲水の宴

「曲水の宴」は『日本書紀 卷十五』には…

二年（顕宗帝二年）の春弥生の上の巳の日に後苑に幸して曲水の宴きこしめす。  
この時喜び集へるまへつきみたち、臣、連、くにもみやつこ、とものみやつこをつどへて  
とよのあかり（宴会の意味）したまふ。まへつきみたち類（しきり）によるこびまうす。

とあり、顕宗帝時代（486年頃）に禊 祓の風習が伝来し、曲水の宴として定着したようである。

### (3) 雛遊びの語源

日本書紀卷五には崇神帝時代（4世紀半ば～5世紀半ば）、雛祭りの起源とされる「比賣那素寐」の故事が書かれている。帝の油断を戒める乙女の歌を聞き、敵の蜂起を知って勝利を得たという故事。ただし、「比賣那素寐」が「雛遊び」と言い切れるかは疑問。「比賣那素寐」とは女性と戯れることで、「姫遊」と書く。



## 2 雛遊びから雛祭りへ

### (1) 平安王朝と雛遊び

宮廷の姫君たちの遊びとして、平安王朝の文学には雛遊びが登場する。

源氏物語では末摘花、紅葉賀、蛩、夕霧の各帖に出てくる。また、清少納言の枕草子には…

過ぎにしかた恋しきもの（なつかしいもの） 枯れたる葵 ひいなあそびのてうど  
うつくしきもの（かわいらしいもの） ひいなの調度

とあり、雛遊びが貴族の生活の中に定着していたことがうかがわれる。

ここでは、ままごと遊びや着せ替え人形と同じように雛の着物や小さな調度品も揃えて遊んでいる。まだ三月三日の雛祭りの行事はなかった。

### (2) 雛祭りの始まり

二代将軍徳川秀忠の娘で、後水尾天皇の中宮として入内した東福門院が三月三日に雛の宴を催している。ただし、雛祭りとはいわずに雛遊びと呼んでいた。雛祭りの名が一般的になるのは江戸中期以降のようである。元禄以降（1688～）庶民の間にも雛祭りが急速に広まっていった。雛人形は武家の子女など身分の高い女性の嫁入り道具でもあった。

## 雛人形の種類

### 1 享保雛

江戸中期、享保（1716～1736）頃流行したといわれる雛。享保雛という名前は明治時代につけられた。時代は享保年間に限っているわけではなく、明治になっても製作・販売された。町屋などで多く飾られ、大型のものが多く。装束は金襴や錦を使い、男雛は袖を張り、太刀をさし、笏を持つ。女雛は冠をかぶり、檜扇を持ち、五衣、唐衣姿で袴は綿を入れて、大きく高く膨らませている。

### 2 有職雛

宝暦（1751～1764）の頃に作られた雛で、公卿の装束を有職故実にもとづいて正しく仕立てられたもの。明治以降この名前と呼ばれている。公卿が特別に作らせたのが始まり。宮中に仕えて正式の装束を製作していた高倉家と山科家に衣服を作らせたので高倉雛、山科雛とも呼ばれる。雛商人も一般の雛と区別して親王雛と呼んだ。

### 3 次郎左衛門雛

京都の人形師、雛屋次郎左衛門が創りだした雛で制作者の名前が付いている唯一の雛。初めは上流階級の雛だったが、作者が宝暦十一年（1761）江戸に下り日本橋に店を出して売り出すと、江戸の人気を集めた。しかし、舟月の古今雛がでると旧式扱いされ、人気は急速に衰えた。

### 4 古今雛

江戸時代後半にかけてあらわれた江戸製の雛。明和年間（1764～1772）頃、江戸・池ノ端の雛人形問屋、大榎屋半兵衛が十軒店（じっけんだな）の人形師、舟月に作らせて売り出した。これまでの雛の衣装を一層華やかにして、金糸・色糸などで縫いとりをほどこし仕上げた。顔も写実的で眼にガラスなどをはめ込み精巧に作られた。江戸っ子雛として大流行し、京・大坂でも人気を得た。古今雛という名前は大榎屋が売り出すときに付けたもの。

### 5 芥子雛

江戸時代中期以降に流行った小形の雛で、三寸（10センチ弱）以下のものをいう。大形の雛が幕府によってたびたび禁止されたため、小型化した。なかには高さ3センチ以下のものも作られた。

## 京都からやってきた雛と、江戸からやってきた雛

### 1 京都製の雛

酒田は京都・大阪との交易が盛んで、酒田湊に入った京都製の雛人形が一般の家にも渡って愛好された。京都から船で運ばれたものは手を加えていないので優れた物が残っている。

### 2 江戸製の雛

江戸から陸路を通して入ったものは国境の峠を越さなければならないため、荷物を出来るだけ小さくし、また人形の破損を防ぐために頭や手足、付属品を解体して運び込み、それを土地の人形師が組み立てる方法を取った。

## 男雛と女雛の並べ方

向かって右が男雛、左が女雛の形式が大正時代まで受け継がれてきた。平安時代では左の位が高い(左大臣)。雛の左右が逆転したのは昭和三年（1928）、昭和天皇の即位式が京都の紫宸殿<sup>ししんでん</sup>で行われ、その時の天皇、皇后の位置で決めたと言われている。

